

## 月間降下物の調査結果について（放射性ストロンチウム）

### 【要旨】

本県を含む福島近隣10都県の月間降下物について、文部科学省が平成22年4月から23年12月まで実施したストロンチウム90の調査結果が公表されました。本県の状況は次のとおりです。

- 本県の測定地点は盛岡市（環境保健研究センター）。ストロンチウム90が検出されたのは平成23年3月から9月までの7箇月間で、**最大値は0.74ベクレル毎平方メートル**（平成23年4月）。
- 合計値は**1.91ベクレル毎平方メートル**で、福島原発事故前の23年間（昭和62～平成21年度）に観測された県内の土壤中の平均沈着量である**610ベクレル毎平方メートル**と比較すると、**今回の事故の影響は0.31%の増加に相当**。

### 1 調査方法

#### (1) 今回の公表範囲

岩手県、秋田県、山形県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県。

#### (2) 試料採取及び分析

自治体が雨水、ちり等の降下物を1箇月単位で採取し、国が分析。

### 2 調査結果

#### (1) 本県の状況

採取期間	降下量（ベクレル／㎡）	
	ストロンチウム90	セシウム137及び134
【事故前】		
H22. 4月	不検出	0.040
5月	不検出	不検出
6月	不検出	不検出
7月	不検出	不検出
8月	不検出	不検出
9月	不検出	不検出
10月	不検出	不検出
11月	不検出	不検出
12月	不検出	0.044
H23. 1月	不検出	不検出
2月	不検出	0.034

採取期間	降下量（ベクレル／㎡）	
	ストロンチウム90	セシウム137及び134
【事故後】		
H23. 3月	0.28	1500
4月	<b>最大 0.74</b>	490
5月	0.51	91
6月	0.066	16
7月	0.11	11
8月	0.065	6.2
9月	0.14	3.4
10月	不検出	1.6
11月	不検出	13
12月	不検出	8.9
合計	1.91	2141.1

※ 文部科学省は核実験の影響等を把握するため、大気、降水、海水、農水産物などを対象とする調査を実施しており、本県はチェルノブイリ原発事故を契機として昭和62年度から調査地点に追加されました。

→過年度の調査結果は[環境放射線データベース](#)や[本県のホームページ](#)でご覧になれます。

### 【福島原発事故前23年間の調査結果】

調査年度	土壌中の平均沈着量 (ベクレル/m <sup>2</sup> )	調査年度	土壌中の平均沈着量 (ベクレル/m <sup>2</sup> )
	ストロンチウム90		ストロンチウム90
昭和62	910	平成11	580
63	990	12	620
平成元	810	13	520
2	720	14	560
3	770	15	440
4	780	16	390
5	770	17	430
6	630	18	530
7	630	19	390
8	650	20	380
9	410	21	400
10	730	<b>平均</b>	<b>610</b>

#### (2) 全国の状況

今回公表された各都県における降下量の最大値は次のとおりです。

→詳細は[文部科学省のホームページ](#)でご覧になれます。

都県名等	採取時期	降下量の最大値 (ベクレル/m <sup>2</sup> )
<b>岩手県（盛岡市）</b>	<b>平成23年 4 月</b>	<b>0.74</b>
秋田県（秋田市）	平成23年 4 月	0.30
山形県（山形市）	平成23年 3 月	1.6
茨城県（ひたちなか市）	平成23年 3 月	6.0
栃木県（宇都宮市）	平成23年 3 月、4 月	1.2
群馬県（前橋市）	平成23年 3 月	1.9
埼玉県（さいたま市）	平成23年 3 月	1.0
千葉県（千葉市）	平成23年 3 月	0.44
東京都（新宿区）	平成23年 3 月	0.89
神奈川県（茅ヶ崎市）	平成23年 3 月	0.47

#### 3 ストロンチウム90の性質等（参考）

- ・ ウランやプルトニウムの核分裂生成物。ベータ線を放出し、半減期は29年。
- ・ 骨に蓄積する性質があり、内部被ばくが問題になるため、食品衛生法では、セシウムの中に一定割合でストロンチウム等が含まれるものと仮定して、セシウムの基準値を設定しています。
- ・ ガンマ線を放出せず、都道府県が保有する半導体検出器では測定できないため、国が分析を行っています。